

科目名 (英)	歯科技工士関係法規 Dental Technologist Applicable Laws and Regulations	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日・時間	月・火 / 6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が実例を交えながら基本的な法律の知識について授業する。						
目的	歯科技工士関係法規を習得する。						
科目概要	歯科技工士として業務を行うために必要な「歯科技工士法」と「歯科医療関係法規」について事例を交えながら理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科技工士に必要な衛生行政の概要がわかる。 ・歯科技工士法について、様々な事例に適用して捉えられるようになる。 ・医療法、歯科医師法、歯科衛生士法の概要が理解できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、筆記試験を100点満点とする。試験は知識を確認する問題(空欄補充など)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯科技工管理学」(医歯薬出版)	事前事後 学習と その内容	事前学習： シラバスおよび教科内容の確認、配布資料の空欄補充をあらかじめ行っておくとよい。 事後学習： 小テストの復習をするとよい。				
参考図書	歯科技工士国家試験問題集(医歯薬出版)						
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	衛生行政	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生行政の概要について理解する。 ・憲法第25条について理解する。
2	歯科技工士法、免許－1	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科技工士制度の沿革、歯科技工士法の目的について理解する。 ・歯科技工士免許、申請書類、欠格事由について条文を覚え、理解する。
3	免許－2	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科技工士名簿、名簿の登録事項について条文を覚え、理解する。 ・業務従事者届出事項について条文を覚え、理解する。
4	試験、業務	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科技工士試験、受験資格について理解する。 ・歯科技工指示書、守秘義務について条文を覚え、理解する。
5	歯科技工所	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科技工所の開設、届出事項、管理者の義務について理解する。 ・広告の制限について条文を覚え、理解する。
6	歯科医療関係法規	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・医療法について概要を理解する。 ・歯科医師法、歯科衛生士法について概要を理解する。
7	歯科技工士法 まとめ	講義	・2回～5回までに学習した歯科技工士法のまとめテストと講義を通して、理解できていない点を明確にする。
8	総まとめ	講義	・1回～7回までに学習した歯科技工士法のまとめテストと講義を通して、理解できていない点を明確にする。

科目名 (英)	キャリアデザインⅡ Career DesignⅡ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	富野 浩子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	16	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	火～金 / 5～6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科医院での臨床経験を有し、歯科技工士会役員も務める教員が、ゲスト講師を招き歯科医療界の動向について授業する。						
目的	歯科技工士の業務と歯科技工士の歯科医療における役割について理解し、自らの将来像を明確にする。						
科目概要	歯科医療の現場で活躍する卒業生や、企業の採用担当者から業界の諸事例について情報収集し、歯科医療界の動向について理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科医療界の動向について理解することができる。 ・歯科医療界の動向を踏まえ、自らの未来設計をすることができる。 						
評価方法	期限を守って提出したレポート 80%、平常点評価 20%とする。レポートは到達目標についての理解を確認する内容とする。 詳しくは第1回授業で説明する。平常点評価は毎授業に実施する提出物で評価する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	ゲスト講師の授業がある場合は事前学習として、その企業のホームページで会社概要を確認しておくこと。 企業の開催する説明会やインターンシップに、自ら積極的に参加し、業界の情報を収集することを事後学習とする。		
参考図書	適宜紹介する						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科技工業界について 1	講義	ゲスト講師：歯科技工所経営者 歯科技工所の経営者が、歯科技工所における歯科技工業務ならびに求められる人材について講義する。この講義を通じ、仕事に就く為に必要なことは何かを理解する。
2	歯科技工業界について 2	講義	ゲスト講師：歯科技工所経営者 歯科技工所の経営者が、歯科技工所における歯科技工業務ならびに求められる人材について講義する。この講義を通じ、仕事に就く為に必要なことは何かを理解する。
3	歯科技工業界について 3	講義	ゲスト講師：歯科技工所経営者 歯科技工所の経営者が、歯科技工所における歯科技工業務ならびに求められる人材について講義する。この講義を通じ、仕事に就く為に必要なことは何かを理解する。
4	歯科技工所職員との対話 1	演習	歯科技工所の職員を迎え、仕事の紹介を聞き、対話を通じて自らの将来像を明確にする。職員との対話は実践演習であるので、スーツを着用し、対話の態度についても実践することができる。
5	歯科技工所職員との対話 2	演習	歯科技工所の職員を迎え、仕事の紹介を聞き、対話を通じて自らの将来像を明確にする。職員との対話は実践演習であるので、スーツを着用し、対話の態度についても実践することができる。
6	歯科技工所職員との対話 3	演習	歯科技工所の職員を迎え、仕事の紹介を聞き、対話を通じて自らの将来像を明確にする。職員との対話は実践演習であるので、スーツを着用し、対話の態度についても実践することができる。
7	プロの歯科技工士として成長していくために 1	講義	ゲスト講師：歯科技工所経営者 歯科技工所の経営者が、歯科技工所における新人教育ならびに求められる人材について講義する。この講義を通じ、新人歯科技工士に求められる役割、プロフェッショナルとして成長していく意義を理解する。
8	プロの歯科技工士として成長していくために 2	講義	ゲスト講師：歯科技工所経営者 歯科技工所の経営者が、歯科技工所における新人教育ならびに求められる人材について講義する。この講義を通じ、新人歯科技工士に求められる役割、プロフェッショナルとして成長していく意義を理解する。

科目名 (英)	歯科理工学総合 Dental Materials Science	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	富野 浩子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	前期
		単位	1	曜日/時間		月 / 6限	
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所での臨床経験豊富な教員が、現在の業界動向も交えた解剖学の知識を、教育工学の各種手法やICTを積極的に活用して授業を行う。						
目的	製作する歯科技工物に用いる材料に関して、正しい知識と取り扱い方法を習得する。						
科目概要	歯科技工物の製作で使用する材料の種類・組成・性質・取り扱い方法について、事例を交えながら理解する。						
到達目標	歯科材料について、長所・短所がわかる。 歯科材料について、取扱いの注意事項がわかる。 歯科材料について、起こりうる失敗例の予防方法がわかる。						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点とする。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯科理工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習としては、1年次(あるいは現行の)実習授業で使用した実習を振り返り、使用材料や取り扱いの方法を確認しておくこと良い。 また、実習で使用していない材料については教科書等を読み、材料名などを覚えておくこと良い。		
参考図書	なし						
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯冠用硬質レジン	講義	<ul style="list-style-type: none"> 硬質レジンの組成(フィラー、モノマー、重合開始剤など)について理解する。 硬質レジンの性質、重合の種類について理解する。 金属との結合(機械的維持、化学的接着)について理解する。
2	非貴金属合金	講義	<ul style="list-style-type: none"> コバルトクロム合金について特性と取扱いを理解する。 チタンおよびチタン合金について特性と取扱いを理解する。 ステンレス鋼について特性と取扱いを理解する。
3	研磨	講義	<ul style="list-style-type: none"> 研磨の意義と目的を理解する。 機械研磨に用いる器具・機械と、砥粒の種類について理解する。 化学研磨(電解研磨)の方法と特徴、利点・欠点について理解する。 研磨効率について理解する。 各種修復物の研磨方法について理解する。
4	陶材・セラミックス1	講義	<ul style="list-style-type: none"> 歯冠用セラミックスの種類(焼成温度による分類、成分による分類)を理解する。 セラミックスの機械的性質と強化方法を理解する。 長石系陶材の組成(長石、石英、カオリン、フラックス、金属酸化物、リューサイト)とその役割を理解する。
5	陶材・セラミックス2	講義	<ul style="list-style-type: none"> 長石質陶材の築盛(練和、築盛、コンデンス)について理解する。 長石質陶材の焼成(焼成過程、気泡、注意点、焼成収縮)について理解する。 金属焼付用陶材(陶材と貴金属の結合、陶材と非貴金属の結合、陶材焼付用合金)について理解する。
6	特別講義 「加圧型セラミックス、ジルコニア」 昭和大学歯学部 講師 片岡 有	講義	<ul style="list-style-type: none"> 加熱加圧型セラミックス(成分、成形法)について理解する。 ジルコニア(種類、成形法)について理解する。 その他のセラミックス材料(アルミナ陶材、キャストブルセラミックスなど)について理解する。
7	定期試験に向けて まとめ講義	講義	<ul style="list-style-type: none"> 1～6回の復習を行い、不明点を明確にして理解を深める。
8	定期試験と解説講義	講義	<ul style="list-style-type: none"> 1～6回の内容について試験を行う。 試験終了後は自己採点を行い理解度を確認する。 自己採点後は試験の解説講義を行い知識を定着させる。

科目名 (英)	デジタル歯科技工実習 Training of Digital Dental Technology	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	前期
講師紹介	歯科技工士として大学付属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし歯の解剖学的形態の基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックを交え授業を行う。						
目的	CAD/CAMを中心とした最先端技術の歯科技工についての知識を習得する。						
科目概要	歯科用のCAD/CAMについて基本操作を体験しながら、デジタル技工について理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フルキャストクラウンおよび窓開けのデザインを行うことができる。 ・金属床フレームのデザインを行うことができる。 ・削りだしたワックスパターンの取り扱いが正しくできる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	CAD/CAMシステムの種類や特性について事前に調べておく と良い。		
参考図書	適宜紹介する						
特記事項	必要に応じてプリントを配布する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	CADCAM時代とはどんな時代なのか	実習	担当:難羽 康博(アスパイア) 今までとは違うこれからのCAD/CAM時代を理解する。
2	下顎小臼歯のデザイン①	実習	担当:木下 隆之(STLデザイン) GCアドバンスシステムを用いて、ソフトの立ち上げ方からスタートし、下顎小臼歯のフルキャストクラウンのデザインを行い基本的なデザインの方法を理解する。
3	下顎小臼歯のデザイン②	実習	担当:木下 隆之(STLデザイン) GCアドバンスシステムを用いて、ソフトの立ち上げ方からスタートし、下顎小臼歯のフルキャストクラウンのデザインを行い基本的なデザインの方法を理解する。
4	下顎小臼歯のデザイン③ ／スキャナの使い方①	実習	・前回までに作成したメモを用いて、自力で下顎小臼歯のフルキャストクラウンのデザインを行い理解度を確かめ、深める。 ・模型のスキャン方法を理解する。
5	下顎小臼歯のデザイン④ ／スキャナの使い方②	実習	・前回までに作成したメモを用いて、自力で下顎小臼歯のフルキャストクラウンのデザインを行い理解度を確かめ、深める。 ・模型のスキャン方法を理解する。
6	下顎小臼歯のデザイン～窓開け①	実習	担当:木下 隆之(STLデザイン) ・下顎小臼歯のフルキャストクラウンを復習し、そこからフルベイクの窓開けデザインを行う。 ・フィニッシングライン、陶材築盛面の形態を理解する。
7	下顎小臼歯のデザイン～窓開け②	実習	担当:木下 隆之(STLデザイン) ・下顎小臼歯のフルキャストクラウンを復習し、そこからフルベイクの窓開けデザインを行う。 ・フィニッシングライン、陶材築盛面の形態を理解する。
8	上顎中切歯のデザイン～窓開け	実習	・上顎中切歯の形態をデザインし、パーシャルベニアベイクの窓開けデザインを行う。 ・フィニッシングライン、陶材築盛面の形態を理解する。
9	上顎小臼歯のデザイン～窓明け	実習	・上顎小臼歯の形態をデザインし、パーシャルベニアベイクの窓開けデザインを行う。 ・フィニッシングライン、陶材築盛面の形態を理解する。
10	CAM機の使い方	実習	・デザインしたデータを移す工程の体験を通じて、CAM機の使い方を理解する。
11	上顎小臼歯のデザイン～削りだし	実習	・上顎小臼歯のデザインを行い、実際にCAM機で削りだしを行う。 ・デザインから削りだしまでの工程を理解する。
12	金属床義歯のスキャン～デザイン	実習	・金属床義歯のスキャンからデザイン(大連結子、スケルトン部)の工程を理解し、製作する。
13	金属床のデザイン	実習	・金属床義歯のスキャンからデザイン(維持装置、小連結子)の工程を理解し製作する。
14	GCのCAD/CAMシステム	実習	担当:講師依頼中 ・株式会社GCのCAD/CAMシステム、今後の動向について理解する。
15	CADワックスパターンの取り扱い	実習	・削り出したワックスパターンを用いて、埋没までの取り扱いを実践する。

科目名 (英)	歯の解剖学総合 Dental Anatomy	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月～水 / 5限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連づけて、歯型彫刻の手技を指導する。						
目的	歯科技工士として、歯および歯周組織に関する知識を習得する。						
科目概要	歯の発生機構、硬組織及び歯周組織の構造と経年変化について理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 歯および歯周組織の発生由来、歯冠および歯根の発生機構を理解できる。 硬組織及び歯周組織の構造と加齢変化について理解できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点とする。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習: 教科書を読み、図や表を確認しておくといよい。 事後学習: 授業で実施した確認テストを復習しておくといよい。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	発 生	講義	これから勉強する組織を理解する上で必要となる、発生由来、歯冠の発生(2年次に修了)を復習し、新たに歯根の発生について理解する。
2	エナメル質	講義	エナメル質の基本的構造、加齢変化について理解する。
3	象牙質	講義	象牙質の基本的構造、加齢変化について理解する。
4	セメント質	講義	セメント質の基本的構造、加齢変化について理解する。
5	歯根膜・歯槽骨	講義	歯根膜・歯槽骨の基本的構造、加齢変化について理解する。
6	歯 肉	講義	歯肉の基本的構造、加齢変化について理解する。また、歯肉を含めて口腔粘膜の分類を理解する。
7	歯髄、組織の加齢現象	講義	歯髄の基本的構造、加齢変化について理解する。また、歯髄を含めてこれまで勉強してきた歯や歯周組織の加齢現象の全体像を復習する。
8	復習	講義	1～7のプリント、小テストを復習し、不明点を明確にして理解を深める。

科目名 (英)	有床義歯技工学総合 Dental Technology of Denture	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	日高 洋幸
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	20	授業回数 (コマ数)	10	開講区分	前期
		単位	1			曜日・時間	火 / 5限
講師紹介	株式会社UNICON(歯科技工所)の代表取締役であり、業界を代表する歯科技工士でもある講師が、豊富な臨床実務経験を活かし、有床義歯に必要な知識や理論について講義を行う。						
目的	金属床義歯の製作を通して、有床義歯技工学を総合的に復習し習得する。						
科目概要	金属床義歯の特徴、製作方法、その他有床義歯製作に必要な知識を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・以前製作したレジン床と比較した、金属床義歯の特徴が理解できる。 ・実習授業では製作しない、オーバーデンチャー、ノンクラスプデンチャー、テレスコープ義歯、オルタードキャストについて理解できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、筆記試験を100点満点とする。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として教科書をあらかじめ読み、装置の形を確認しておくといよい。		
参考図書	適宜紹介する。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	金属床義歯①	講義	金属床義歯とは何か、構造設計と金属床義歯の利点・欠点について理解する。
2	金属床義歯②	講義	金属床義歯製作について、新たに加わる製作工程について理解する。
3	ケネディの分類	講義	ケネディの分類法の各級について理解する。
4	設計	講義	口腔内での義歯の動きを理解し、その動きを抑えるような設計を理解する。
5	アイヒナーの分類、小連結子	講義	アイヒナーの分類、小連結子について理解する。
6	テレスコープ義歯	講義	テレスコープデンチャーについて理解する。
7	オルタードキャスト法	講義	オルタードキャスト法について理解する。
8	ノンクラスプデンチャー	講義	ノンクラスプデンチャーについて理解する。
9	オーバーデンチャー	講義	オーバーデンチャーについて理解する。
10	総まとめ	講義	有床義歯技工学総合で学んだことを振り返り、理解度を深める。

科目名 (英)	有床義歯応用実習 I Advanced Training of Denture Techniques I	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	鵜飼 芳行
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日・時間	月～金 / 5・6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院での実務経験を有し、経験豊富な教員が有床義歯技工学に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	製作に関する知識と技術を活かし、金属床義歯の製作ができるようになる。						
科目概要	ワックスアップからメタルフレームの研磨完成まで、講義で学んだ知識を基に金属床義歯の製作をする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・金属床義歯の設計から耐火模型製作までの工程のデモンストレーションを見て製作し、作品を完成させることができる。 ・既製パターンを用いてのワックスアップの方法、注意点を理解し作品を製作することが出来る。 ・コバルトクロム合金の形態修正、研磨の工程、注意点を理解し作品を製作することが出来る。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、「有床義歯技工学」の教科書を読み、製作工程および注意事項について確認しておくが良い。		
参考図書	適宜紹介する						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	サベイング～設計	実習	サベイング操作を復習し、リングルバー、RPI、双子鉤を含む金属床フレームの設計を理解し、製作を行う。
2	リリース、ブロックアウト	実習	設計に合わせた、作業用模型上での処理(リリース、ブロックアウト)について理解し、製作する。
3	複印象採得～耐火模型材注入 ／咬合器装着	実習	作業用模型をシリコン印象材で複印象し、高温鑄造用の耐火模型の製作について、それらの工程を理解し、製作する。
4	耐火模型乾燥～表面処理 ／咬合器装着	実習	耐火模型の乾燥から表面処理までの操作を理解し、製作する。
5	設計転写～ワックスアップ	実習	耐火模型の設計線転写、ワックスアップを手順通りに行う。
6	リングルバーワックスアップ	実習	既製パターンを用いてのリングルバーのワックスアップ方法を理解し、製作する。
7	支台装置ワックスアップ	実習	既製パターンを用いての支台装置、スケルトン部のワックスアップ方法を理解し、製作する。
8	ワックスアップ完成～耐火模型トリミング	実習	既製パターンの連結および外フィニッシングラインの形成方法を理解し、製作する。
9	スプルーイング～埋没	実習	吸引加圧鑄造用の高温鑄造のスプルー、埋没の方法を理解し、製作する。
10	掘り出し～サンドブラスト ～スプルーカット	実習	リン酸塩系埋没材の掘り出し、非貴金属合金のスプルーカット、形態修正について、それらの工程を理解し、製作する。
11	形態修正	実習	非貴金属合金の形態修正の方法を理解し、製作する。
12	形態修正	実習	非貴金属合金の形態修正の方法を理解し、製作する。
13	荒研磨	実習	非貴金属合金の荒研磨の方法を理解し、製作する。
14	仕上げ研磨	実習	非貴金属合金の仕上げ研磨の方法を理解し、製作する。
15	研磨完成	実習	非貴金属合金の研磨操作、研磨後の処理の方法を理解し、製作する。

科目名 (英)	有床義歯応用実習Ⅱ Advanced Training of Denture TechniquesⅡ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	鵜飼 芳行
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	前期
		単位	1			曜日・時間	月～金 / 5、6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院での実務経験を有し、経験豊富な教員が有床義歯技工学に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	製作に関する知識と技術を活かし、金属床義歯の製作ができるようになる。						
科目概要	人工歯配列、歯肉形成、レジン研磨まで、講義で学んだ知識を基に金属床義歯の製作をする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・金属フレーム上での流し込みレジン用の人工歯排列の方法、注意点を理解し、製作することができる。 ・金属フレーム上での流し込みレジン用の歯肉形成の方法、注意点を理解し、製作することができる。 ・金属フレーム上での流し込みレジン用の形態修正、研磨の方法や注意点を理解し、製作することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、「有床義歯技工学」の教科書を読み、製作工程および注意事項について確認しておくが良い。		
参考図書	適宜紹介する						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	フレーム模型試適	実習	金属フレームの作業用模型適合について理解し、製作する。
2	人工歯排列～削合	実習	流し込みレジン法のための人工歯排列と削合の工程を理解し、製作する。
3	削合～歯肉形成	実習	流し込みレジン法のための削合と歯肉形成の工程を理解し、製作する。
4	歯肉形成	実習	流し込みレジン法のための歯肉形成について理解し、製作する。
5	歯肉形成～コア採得準備	実習	シリコーンを用いたコア採得の準備を行う。
6	注入口付与～コア製作	実習	流し込みレジン法の注入口付与および、コア採得の工程を理解し、実践する。
7	流蠟～レジン注入準備	実習	シリコーンコアを用いた流し込み法について、流蠟操作方法を理解し、実践する。
8	レジン注入～重合	実習	流し込み方法、重合の方法を理解し、実践する。
9	注入口カット～形態修正	実習	流し込みレジンの形態修正の方法を理解し、形態修正する。
10	荒研磨	実習	流し込みレジンの荒研磨のポイントを理解し、研磨する。
11	中研磨	実習	流し込みレジンの中研磨のポイントを理解し、研磨する。
12	砂研磨	実習	流し込みレジンの砂研磨のポイントを理解し、研磨する。
13	仕上げ研磨	実習	流し込みレジンの仕上げ研磨のポイントを理解し、研磨する。
14	研磨完成	実習	流し込みレジンの艶出し、研磨後の処理についてポイントを理解し、研磨完成させる。
15	まとめ・振り返り	実習	金属床義歯の製作工程を振り返り、レポートを作成する。

科目名 (英)	有床義歯総合実習 Denture Techniques	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有	開講区分	
		時間数	30	授業回数	15		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	1	(コマ数)		後期 月～金 / 5・6限	
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が有床義歯技工学に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	全部床義歯の製作過程である人工歯排列(下顎法)、歯肉形成の技術力を習得する。						
科目概要	全部床義歯の人工歯排列(下顎法)、歯肉形成について、「スピード」、「正確さ」を重視した反復トレーニングを行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 全部床義歯前歯部排列法(下顎法)の手順、注意点を理解し、人工歯排列することができる。 全部床義歯臼歯部排列法(下顎法)の手順、注意点を理解し、人工歯排列することができる。 全部床義歯の歯肉形成の手順、注意点を理解し、完成させることができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版) 配布資料 有床義歯技工学 実習プリント(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、「有床義歯技工学」の教科書および「実習プリント」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくこと良い。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第6版 コンプリートデンチャーテクニック(医歯薬出版)						
特記事項	なし						

授業計画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	全部床義歯排列①〔トライ〕 全部床義歯排列①〔チェック〕	実習	全部床義歯の排列方法(下顎法)の手順、注意事項について復習する。 全部床義歯の正しい排列基準を理解し、修正箇所をチェックする。 制限時間内で全部床義歯の排列を完成させる技工術式を習得する。
2	全部床義歯排列②〔トライ〕 全部床義歯排列②〔チェック〕	実習	全部床義歯の排列方法(下顎法)の手順、注意事項について復習する。 全部床義歯の正しい排列基準を理解し、修正箇所をチェックする。 制限時間内で全部床義歯の排列を完成させる技工術式を習得する。
3	全部床義歯排列・歯肉形成③〔トライ〕 全部床義歯排列・歯肉形成③〔チェック〕	実習	全部床義歯の排列方法(下顎法)の手順、注意事項について復習する。 全部床義歯の歯肉形成の手順、注意事項について復習する。 制限時間内で全部床義歯の排列・歯肉形成を完成させる技工術式を習得する。
4	全部床義歯排列・歯肉形成③〔チェック〕 蠟堤 準備	実習	全部床義歯の正しい排列基準を理解し、修正箇所をチェックする。 全部床義歯の正しい歯肉形態を理解し、修正箇所をチェックする。 制限時間内で全部床義歯の蠟堤を準備する。
5	全部床義歯排列・歯肉形成④〔トライ〕 全部床義歯排列・歯肉形成④〔チェック〕	実習	全部床義歯の排列方法(下顎法)の手順、注意事項について復習する。 全部床義歯の歯肉形成の手順、注意事項について復習する。 制限時間内で全部床義歯の排列・歯肉形成を完成させる技工術式を習得する。
6	全部床義歯排列・歯肉形成④〔チェック〕 蠟堤 準備	実習	全部床義歯の正しい排列基準を理解し、修正箇所をチェックする。 全部床義歯の正しい歯肉形態を理解し、修正箇所をチェックする。 制限時間内で全部床義歯の蠟堤を準備する。
7	全部床義歯排列・歯肉形成⑤〔トライ〕 全部床義歯排列・歯肉形成⑤〔チェック〕	実習	全部床義歯の排列方法(下顎法)の手順、注意事項について復習する。 全部床義歯の歯肉形成の手順、注意事項について復習する。 制限時間内で全部床義歯の排列・歯肉形成を完成させる技工術式を習得する。
8	全部床義歯排列・歯肉形成⑤〔チェック〕 蠟堤 準備	実習	全部床義歯の正しい排列基準を理解し、修正箇所をチェックする。 全部床義歯の正しい歯肉形態を理解し、修正箇所をチェックする。 制限時間内で全部床義歯の蠟堤を準備する。
9	全部床義歯排列・歯肉形成⑥〔トライ〕 全部床義歯排列・歯肉形成⑥〔チェック〕	実習	全部床義歯の排列方法(下顎法)の手順、注意事項について復習する。 全部床義歯の歯肉形成の手順、注意事項について復習する。 制限時間内で全部床義歯の排列・歯肉形成を完成させる技工術式を習得する。
10	全部床義歯排列・歯肉形成⑥〔チェック〕 蠟堤 準備	実習	全部床義歯の正しい排列基準を理解し、修正箇所をチェックする。 全部床義歯の正しい歯肉形態を理解し、修正箇所をチェックする。 制限時間内で全部床義歯の蠟堤を準備する。
11	全部床義歯排列・歯肉形成⑦〔トライ〕 全部床義歯排列・歯肉形⑦〔チェック〕	実習	全部床義歯の排列方法(下顎法)の手順、注意事項について復習する。 全部床義歯の歯肉形成の手順、注意事項について復習する。 制限時間内で全部床義歯の排列・歯肉形成を完成させる技工術式を習得する。
12	全部床義歯排列・歯肉形成⑦〔チェック〕 蠟堤 準備	実習	全部床義歯の正しい排列基準を理解し、修正箇所をチェックする。 全部床義歯の正しい歯肉形態を理解し、修正箇所をチェックする。 制限時間内で全部床義歯の蠟堤を準備する。
13	全部床義歯排列・歯肉形成⑧〔トライ〕 全部床義歯排列・歯肉形⑧〔チェック〕	実習	全部床義歯の排列方法(下顎法)の手順、注意事項について復習する。 全部床義歯の歯肉形成の手順、注意事項について復習する。 制限時間内で全部床義歯の排列・歯肉形成を完成させる技工術式を習得する。
14	全部床義歯排列・歯肉形成⑨〔トライ〕 全部床義歯排列・歯肉形⑨〔チェック〕	実習	全部床義歯の排列方法(下顎法)の手順、注意事項について復習する。 全部床義歯の歯肉形成の手順、注意事項について復習する。 制限時間内で全部床義歯の排列・歯肉形成を完成させる技工術式を習得する。
15	評価試験 準備	実習	全部床義歯排列について不明点を明確にし、理解を深める。 評価試験に向けて、蠟堤、人工歯の準備を完了させる。

科目名 (英)	歯冠修復技工学総合 I Restorative Dentistry I	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	22	授業回数	11	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月・火 / 5・6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が歯冠修復技工学に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	陶材焼付金属冠等の製作に関する理論と技術について習得する。						
科目概要	陶材焼付金属冠の特徴、ポーセレン(陶材)の築盛・焼成、陶材焼付金属冠の製作過程、ジャケットクラウンについての理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・陶材焼付金属冠の特徴、製作方法、製作上の注意点を理解する。 ・金属、レジン、陶材の特徴を理解する。 ・ジャケットクラウンの特徴、製作方法を理解する。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点とする。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版) 配布資料「国試に強くなる本」(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	事前学習： シラバスおよび教科内容の確認、配布資料の空欄補充をあらかじめ行っておくとよい。 事後学習： 小テストの復習をするとよい。		
参考図書	歯科技工士国家試験問題集(医歯薬出版) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	陶材焼付金属冠	講義	陶材焼付金属冠(メタルボンドクラウン)の特徴、構造、製作上の注意点について理解する。
2	フレームのデザイン-1	講義	硬質レジン前装冠のフレームとメタルボンドクラウンのフレームの違い、窓開けの注意事項について理解する。
3	フレームのデザイン-2	講義	メタルフレームの表面処理法、メタル調整の方法、ディギャッシングの目的について理解する。
4	前鑑付け法と後鑑付け法	講義	メタルボンドブリッジの前鑑付け法と後鑑付け法について理解する。
5	修復材の加工-1	講義	歯科用合金の所要性質、タイプ別金合金、金銀パラジウム合金、陶材焼付用合金、硬化熱処理、金属元素と融点について理解する。
6	修復材の加工-2	講義	レジン前装と陶材前装の比較、歯科用陶材の組成、各成分とその役割・特徴について理解する。
7	修復材の加工-3	講義	クラックの原因、コンデンスの目的、コンデンス法の種類について理解する。
8	ジャケットクラウン	講義	ジャケットクラウンの特徴、製法について理解する。
9	まとめテスト[Step13～16]解説	講義	Step13＝硬質レジン前装冠、Step14＝ジャケットクラウン、Step15＝陶材焼付金属冠、Step16＝継続歯のまとめテストを通して、間違えたところや不明点を明確にし理解を深める。
10	まとめテスト[Step13～16]解説	講義	まとめテスト[Step13～16]で間違えたところや不明点を明確にし理解を深める。
11	総まとめ	講義	1回～10回までに学習した内容の学科試験、解説講義を通して、間違えたところや不明点を明確にし理解を深める。

科目名 (英)	歯冠修復技工学総合Ⅱ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
	Restorative Dentistry II	授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	12	授業回数	6	開講区分	後期
		単位	なし	(コマ数)		曜日/時間	月～金 / 5・6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が歯冠修復技工学に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	歯冠修復技工学全般についての知識を総合的にとらえて習得する。						
科目概要	歯冠修復技工学全般について、模擬試験および確認試験で理解度を確認し深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・陶材焼付金属冠の特徴、製作方法、製作上の注意点を理解する。 ・金属、レジン、陶材の特徴を理解する。 ・ジャケットクラウンの特徴、製作方法を理解する。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、筆記試験を100点満点とする。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版) 配布資料「国試に強くなる本」(オリジナル)	事前事後 学習と その内容	事前学習： シラバスおよび教科内容の確認、配布資料の空欄補充をあらかじめ行っておくとよい。 事後学習： 小テストの復習をするとよい。				
参考図書	歯科技工士国家試験問題集(医歯薬出版) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	模擬試験 修復 解説講義	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験で間違えたところや不明点について理解する。 ・「模擬試験 修復」の確認テストを行う。
2	模擬試験 修復 解説講義	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験で間違えたところや不明点について理解する。 ・「模擬試験 修復」の確認テストを行う。
3	統一模試 解説講義	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・統一模擬試験で間違えたところや不明点について理解する。 ・「統一模擬試験 修復」の確認テストを行う。
4	模擬試験 修復 解説講義	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験で間違えたところや不明点について理解する。 ・「模擬試験 修復」の確認テストを行う。
5	見込認定に向けて復習講義	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・見込認定試験で合格できるように「歯冠修復技工学」全範囲の不明点について理解する。 ・「間接法のまとめ」の確認テストを行う。
6	模擬試験 修復 解説講義	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験で間違えたところや不明点について理解する。 ・「模擬試験 修復」の確認テストを行う。

科目名 (英)	臨床歯科技工学 Clinical Dental Technology	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
		授業形態	講義		有	開講区分	
		時間数	15	授業回数	8		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	1	(コマ数)		曜日/時間	前期 月～金 / 5・6限
講師紹介	歯科技工士として大学付属病院での実務経験を有し経験豊富な教員が、ゲスト講師を招き、臨床現場で役立つ知識・技術について授業を行う。						
目的	臨床現場で必要とされる知識・技術およびチーム歯科医療について理解する。						
科目概要	歯科衛生士による講義、歯科技工所の経営者による講義、歯科衛生士科の学生との合同実習等を実施する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科医療現場における感染予防、レントゲンの見方を理解する。 ・小規模歯科技工所におけるデジタル技工に対する取り組みを理解する。 ・チーム歯科医療における歯科技工士の役割を理解する。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、レポート提出を100点満点とする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	事前学習として、チーム歯科医療について、それぞれの役割や業務について調べておくこと。		
参考図書	なし						
特記事項	なし						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	感染症と歯科医療	講義	担当：講師調整中 歯科衛生士の目線から臨床現場で発生する感染のリスクを理解し、その対策法を理解する。				
2	レントゲンの見方、健康な歯肉	講義	担当：駒井啓一(歯科技工士・歯科衛生士) 模型上ではわからない、レントゲン写真から読み取れる情報を理解する。 模型ではなく、実際の健康な歯肉がどのようなものかを理解する。				
3	今後のデジタル社会を見据えた ラボ経営－①	講義	担当：菅原克彦(有限会社ケイエスデンタル) デジタル化が進んでいる歯科技工所について理解し、臨床現場の今後の流れを理解する。				
4	今後のデジタル社会を見据えた ラボ経営－②	講義	担当：菅原克彦(有限会社ケイエスデンタル) デジタル化が進んでいる歯科技工所について理解し、臨床現場の今後の流れを理解する。				
5	合同実習 DHⅡ部2年生 歯の形態と鑑別、感染症について－①	講義	歯科衛生士科の学生との合同実習を行うことで感染症リスクに対する知識を深める。 歯の形態を踏まえて鑑別方法を伝え自身の理解度を深める。				
6	合同実習 DHⅡ部2年生 歯の形態と鑑別、感染症について－②	講義	歯科衛生士科の学生との合同実習を行うことで感染症リスクに対する知識を深める。 歯の形態を踏まえて鑑別方法を伝え自身の理解度を深める。				
7	歯科医院の診察室でも活用できる 歯科技工技術(仮題)－①	講義	歯科衛生士科Ⅱ部3年生との授業を通じて、チーム歯科における歯科技工士の役割を演習を交えながら理解する。				
8	歯科医院の診察室でも活用できる 歯科技工技術(仮題)－②	講義	歯科衛生士科Ⅱ部3年生との授業を通じて、チーム歯科における歯科技工士の役割を演習を交えながら理解する。				

科目名 (英)	セラミック加工基礎実習 I Basic Training of Ceramic Processing Techniques I	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	木 / 5・6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員がセラミック技工に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	陶材焼付金属冠のワックスアップ～鋳造までの製作過程を習得する。						
科目概要	メタルフレームのデザイン、窓開けの手順、高温鋳造について実践し理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・陶材焼付金属の製作過程を理解し、製作を進めることができる。 ・陶材焼付金属の窓開けの手順、注意点を理解し、製作を進めることができる。 ・陶材焼付金属のスプルーイング～埋没の注意点を理解し、製作を進めることができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版) ノリタケスーパーポーセレンAAA 取扱説明書			事前事後 学習と その内容	事前学習として、「歯冠修復技工学」の教科書および「ノリタケスーパーポーセレンAAA取扱説明書」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくこと。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						
特記事項	なし						

授業計画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	Wax up 14 (45分間) デッサン 14 (15分間)	実習	上顎右側第一小臼歯の解剖学的形態について復習する。 制限時間内でWax upを完成させる技工術を習得する。
2	Wax up 11 [デモと一緒に] 彫刻 14 (30分間)	実習	上顎前歯部Wax upの手順、注意事項について復習する。 上顎右側第一小臼歯の彫刻の手順、注意事項を理解する。
3	Wax up 35 (30分間) [主溝と外形] デッサン 35 (15分間)	実習	下顎左側第二小臼歯の解剖学的形態について復習する。 制限時間内でWax upを完成させる技工術を習得する。
4	Wax up [修正] 11→14の順に	実習	11の特徴を理解し、指摘された箇所を修正する。 14の特徴を理解し、指摘された箇所を修正する。
5	シリコンコア採得 [11] Wax up 35 [修正]	実習	コア採得の意味を理解し、シリコンコア採得をする。 35の特徴を理解し、指摘された箇所を修正する。
6	窓開け 11 [デモと一緒に]	実習	メタルボンドクラウンの作業工程、注意事項について理解する。 前歯部メタルボンドクラウンの窓開けの手順、注意事項について理解し製作する。
7	窓開け 35 [デモと一緒に]	実習	メタルボンドクラウンの作業工程、注意事項について理解する。 臼歯部メタルボンドクラウンの窓開け(フルベークタイプ)の手順について理解し製作する。
8	窓開け 14 [デモと一緒に]	実習	メタルボンドクラウンの作業工程、注意事項を理解する。 臼歯部メタルボンドクラウンの窓開け(ベニヤタイプ)の手順について理解し製作する。
9	窓開け [修正]	実習	前歯部メタルボンドクラウンの窓開けの形態について理解し製作する。 臼歯部メタルボンドクラウンの窓開けの形態について理解し製作する。
10	窓開け [修正]	実習	窓開けの注意事項を理解し、指摘された箇所を修正する。
11	スプルーイング (試験体)	実習	メタルボンドクラウンの作業工程、注意事項について理解する。 ハンドル付与～スプルーイングの注意事項について理解し製作する。
12	マージンチェック～スプルーイング	実習	メタルマージンとポーセレンマージンの違いについて理解する。 マージンチェックの手順、注意事項について理解し製作する。
13	スプルーイング～円錐台植立	実習	スプルーイング～円錐台植立の手順、注意事項について理解し製作する。
14	円錐台植立～埋没	実習	円錐台植立～埋没の手順、注意事項について理解し製作する。 リン酸塩系埋没材の使用法、注意事項について理解し製作する。
15	鋳造体の掘り出し	実習	リン酸塩系埋没材の除去方法の手順、注意事項について理解し製作する。 サンドブラスターの使用法、注意事項について理解し操作する。

科目名 (英)	セラミック加工基礎実習Ⅱ Basic Training of Ceramic Processing Techniques II	年次	3	必修科目	実務経験	科目責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日・時間	木 / 5・6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員がセラミック技工に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	陶材焼付金属冠のメタル調整～研磨・完成までの製作過程を習得する。						
科目概要	メタルフレームの表面処理法、ポーセレンの取り扱い方、形態修正の手順についての理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・陶材焼付金属の製作過程を理解し、製作を進めることができる。 ・陶材焼付金属のメタル調整～グレージングの手順、注意点を理解し、製作を進めることができる。 ・陶材(ポーセレン)の取り扱い方の注意点を理解し、製作を進めることができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版) ノリタケスーパーポーセレンAAA 取扱説明書			事前事後学習とその内容	事前学習として、「歯冠修復技工学」の教科書および「ノリタケスーパーポーセレンAAA取扱説明書」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくが良い。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						
特記事項	なし						

授業計画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	スブルーカット～適合チェック	実習	メタルボンドクラウンの作業工程、注意事項について復習する。 スブルーカット～適合チェックの手順、注意事項について理解し製作する。
2	メタル調整	実習	メタル調整の目的について理解する。 メタル調整の手順、注意事項について理解し製作する。
3	メタル調整～フレーム完成 ディギャッシング	実習	メタルフレームの形態について理解する。 ディギャッシングの目的、方法、注意事項について理解し製作する。
4	オペーク築盛・焼成 試験体→14の順に	実習	11の特徴を理解し、指摘された箇所を修正する。 14の特徴を理解し、指摘された箇所を修正する。
5	オペーク築盛・焼成〔14〕	実習	オペーク陶材の目的、取り扱い法について理解する。 オペーク陶材の築盛・焼成法について理解し製作する。
6	デンティン色築盛・焼成〔試験体〕 オペーク築盛・焼成〔11・35〕	実習	デンティン色陶材の取り扱い法、コンデンス法、焼成法の注意事項について理解する。 オペーク陶材の築盛・焼成法について理解し製作する。
7	エナメル色築盛・焼成〔試験体〕 オペーク築盛・焼成〔11・35〕	実習	エナメル色陶材の取り扱い法、コンデンス法、焼成法の注意事項について理解する。 オペーク陶材の築盛・焼成法について理解し製作する。
8	デンティン色築盛・焼成〔14〕 オペーク築盛・焼成〔11・35〕	実習	デンティン色陶材の取り扱い法、コンデンス法、焼成法の注意事項について理解する。 オペーク陶材の築盛・焼成法について理解し製作する。
9	エナメル色築盛・焼成〔14〕 オペーク築盛・焼成〔11・35〕	実習	エナメル色陶材の取り扱い法、コンデンス法、焼成法の注意事項について理解する。 オペーク陶材の築盛・焼成法について理解し製作する。
10	トランスルーセント色築盛・焼成 〔試験体・14〕	実習	トランスルーセント色陶材の取り扱い法、コンデンス法、焼成法の注意事項について理解し製作する。
11	形態修正〔試験体・14〕	実習	形態修正の手順、注意事項について理解し製作する。 天然歯の表面性状、再現方法について理解し製作する。
12	追加築盛・焼成〔試験体・14〕	実習	追加築盛・焼成の方法、注意事項について理解し製作する。
13	形態修正 完了〔試験体・14〕	実習	天然歯の表面性状、再現方法について理解し製作する。 グレージングに向けた陶材表面の仕上げ方法について理解し製作する。
14	グレージング〔試験体・14〕	実習	グレージングの手順、注意事項について理解し製作する。
15	メタル研磨・完成〔試験体・14〕	実習	メタルボンドクラウンの作業工程、注意事項について理解する。 メタル研磨の手順、注意事項について理解し製作する。

科目名 (英)	歯冠修復総合実習 Restorative Dentistry Techniques	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月～金 / 5・6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が歯冠修復技工に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	全部金属冠の製作過程であるワックスアップ(盛り上げ法)の基礎技術を習得する。						
科目概要	全部金属冠のワックスアップ(盛り上げ法)について、「スピード」、「正確」を重視して反復トレーニングを行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・上顎左側第一大臼歯の特徴を理解し、製作できる。 ・全部金属冠ワックスアップの手順を理解し、製作できる ・全部金属冠ワックスアップの注意点を理解し、製作できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版) 配布資料 歯冠修復技工学 実習プリント(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、「歯冠修復技工学」の教科書および「実習プリント」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことと良い。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版)						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	全部金属冠Wax up①〔トライ〕(45分間) 全部金属冠Wax up①〔チェック〕	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について復習する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解し、修正箇所をチェックする。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を習得する。
2	全部金属冠Wax up②〔トライ〕(45分間) 全部金属冠Wax up②〔チェック〕	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について復習する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解し、修正箇所をチェックする。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を習得する。
3	全部金属冠Wax up③〔トライ〕(45分間) 全部金属冠Wax up③〔チェック〕	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について復習する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解し、修正箇所をチェックする。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を習得する。
4	全部金属冠Wax up④〔トライ〕(45分間) 全部金属冠Wax up④〔チェック〕	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について復習する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解し、修正箇所をチェックする。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を習得する。
5	全部金属冠Wax up⑤〔トライ〕(45分間) 全部金属冠Wax up⑤〔チェック〕	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について復習する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解し、修正箇所をチェックする。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を習得する。
6	全部金属冠Wax up⑥〔トライ〕(45分間) 全部金属冠Wax up⑥〔チェック〕	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について復習する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解し、修正箇所をチェックする。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を習得する。
7	全部金属冠Wax up⑦〔トライ〕(45分間) 全部金属冠Wax up⑦〔チェック〕	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について復習する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解し、修正箇所をチェックする。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を習得する。
8	全部金属冠Wax up⑧〔トライ〕(45分間) 全部金属冠Wax up⑧〔チェック〕	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について復習する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解し、修正箇所をチェックする。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を習得する。
9	全部金属冠Wax up⑨〔トライ〕(45分間) 全部金属冠Wax up⑨〔チェック〕	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について復習する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解し、修正箇所をチェックする。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を習得する。
10	全部金属冠Wax up⑩〔トライ〕(45分間) 全部金属冠Wax up⑩〔チェック〕	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について復習する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解し、修正箇所をチェックする。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を習得する。
11	全部金属冠Wax up⑪〔トライ〕(45分間) 全部金属冠Wax up⑪〔チェック〕	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について復習する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解し、修正箇所をチェックする。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を習得する。
12	全部金属冠Wax up⑫〔トライ〕(45分間) 全部金属冠Wax up⑫〔チェック〕	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について復習する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解し、修正箇所をチェックする。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を習得する。
13	全部金属冠Wax up⑬〔トライ〕(45分間) 全部金属冠Wax up⑬〔チェック〕	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について復習する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解し、修正箇所をチェックする。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を習得する。
14	全部金属冠Wax up⑭〔トライ〕(45分間) 全部金属冠Wax up⑭〔チェック〕	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について復習する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解し、修正箇所をチェックする。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を習得する。
15	評価試験 準備	実習	全部鑄造冠について不明点を明確にし、理解を深める。 評価試験に向けて、模型の準備を完了させる。

科目名 (英)	セラミック加工応用実習 Advanced Training of Ceramic Processing Techniques	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	吉澤 和之
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	前期
		単位	1			曜日・時間	木 / 5・6限
講師紹介	株式会社オーリアラ(歯科技工所)の代表取締役であり、業界を代表する歯科技工士でもある講師が、豊富な臨床実務経験を活かし、審美技工に必要な知識や理論について講義およびデモンストレーションを交えて授業を行う。						
目的	陶材焼付金属冠の製作法について、より臨床的な技法を習得する。						
科目概要	マージンポーセレン法や内部ステインテクニック、表面性状の再現方法について最前線の審美技術を実践する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・陶材焼付金属の製作過程を理解し、製作できる。 ・マージンポーセレン法の手順、注意点を理解し、製作できる。 ・内部ステインテクニックの手順、注意点を理解し、製作できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	配布資料「ポーセレン実習テキスト」(オリジナル) ノリタケスーパーポーセレンAAA 取扱説明書			事前事後 学習と その内容	事前学習として、「歯冠修復技工学」の教科書および「ノリタケスーパーポーセレンAAA取扱説明書」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことと良い。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版) 最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						
特記事項	なし						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	メタルボンドクラウンの製作レクチャー (基礎編)	実習	基本的なメタルボンドクラウンの作業工程、注意事項について理解する。
2	マージンポーセレン築盛・焼成[11]	実習	マージンポーセレンの目的、取り扱い法について理解する。 マージンポーセレン法の手順、注意事項について理解し製作する。
3	内部ステイン築盛・焼成[35] デンティン・エナメル築盛・焼成[35]	実習	内部ステインの目的、取り扱い法について理解する。 デンティン・エナメル陶材の築盛・焼成法の手順、注意事項について理解し製作する。
4	デンティン・エナメル築盛・焼成[11]	実習	デンティン・エナメル陶材の築盛・焼成法の手順、注意事項について理解し製作する。
5	デンティン・エナメル築盛・焼成 [11・35]	実習	デンティン・エナメル陶材の築盛・焼成法の手順、注意事項について理解し製作する。
6	内部構造付与～内部ステイン[11]	実習	内部構造の形態、付与方法、注意事項について理解する。 内部ステインの目的、築盛・焼成法について理解し製作する。
7	ラスター・クリーミーエナメル陶材 築盛・焼成[11・35]	実習	ラスター陶材の特徴、築盛・焼成法の注意事項について理解する。 クリーミーエナメル陶材の特徴、築盛・焼成法について理解し製作する。
8	ラスター・クリーミーエナメル陶材 築盛・焼成[11]	実習	ラスター陶材の特徴、築盛・焼成法の注意事項について理解する。 クリーミーエナメル陶材の特徴、築盛・焼成法について理解し製作する。
9	ラスター・クリーミーエナメル陶材 築盛・焼成[35]	実習	ラスター陶材の特徴、築盛・焼成法の注意事項について理解する。 クリーミーエナメル陶材の特徴、築盛・焼成法について理解し製作する。
10	形態修正[11]	実習	形態修正の手順、注意事項について理解する。 天然歯の表面性状、再現方法について理解し製作する。
11	形態修正[35]	実習	形態修正の手順、注意事項について理解する。 天然歯の表面性状、再現方法について理解し製作する。
12	表面研磨仕上げ[11]	実習	天然歯の表面性状、再現方法について理解する。 グレージングに向けた陶材表面の仕上げ方法について理解し製作する。
13	グレージング～研磨 完成[35]	実習	グレージングの手順、注意事項について理解し製作する。
14	グレージング～研磨 完成[11]	実習	グレージングの手順、注意事項について理解し製作する。
15	メタルボンドクラウンの製作レクチャー (臨床編)	実習	臨床的なメタルボンドクラウンの作業工程、注意事項について理解する。

科目名 (英)	歯科技工実習総合 I Training of Dental Technology I	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が 歯冠修復技工学に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	歯のデッサン、歯型彫刻、全部金属冠のワックスアップ、全部床義歯前歯部排列の基礎技術力を習得する。						
科目概要	歯のデッサン、歯型彫刻、全部金属冠のワックスアップ、全部床義歯前歯部排列の反復トレーニングを行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯のデッサン、歯型彫刻の方法、注意点を理解し、実習を進めることができる。 ・全部金属冠のワックスアップの方法、注意点を理解し、実習を進めることができる。 ・全部床義歯の前歯部排列(下顎法)の方法、注意点を理解し、実習を進めることができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	配布資料 歯の解剖学 実習プリント(オリジナル) 配布資料 歯冠修復技工学 実習プリント(オリジナル) 配布資料 有床義歯技工学 実習プリント(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、歯型彫刻・ワックスアップ・人工歯排列の 項目の「実習プリント」を読み、製作工程および注意事項 について確認しておくこと良い。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版)						
特記事項	なし						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	実技トレーニング① 排列トレーニング①[上下顎前歯部]	実習	上顎前歯部の排列基準、排列方法、注意点について理解し製作する。 下顎前歯部の排列基準、排列方法、注意点について理解し製作する。
2	実技トレーニング② 11 デッサン・彫刻トレーニング①	実習	上顎右側中切歯の特徴をについて理解し製作する。 上顎右側中切歯のデッサン・彫刻の注意点について理解し製作する。
3	実技トレーニング③ 26 ワックスアップトレーニング①	実習	上顎左側第一大臼歯の特徴について理解する。 全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解する。
4	実技トレーニング④ 排列トレーニング②[上下顎前歯部]	実習	上顎前歯部の排列基準、排列方法、注意点について理解し製作する。 下顎前歯部の排列基準、排列方法、注意点について理解し製作する。
5	実技トレーニング⑤ 11 デッサン・彫刻トレーニング②	実習	上顎右側中切歯の特徴をについて理解する。 上顎右側中切歯のデッサン・彫刻の注意点について理解し製作する。
6	実技トレーニング⑥ 26 ワックスアップトレーニング②	実習	上顎左側第一大臼歯の特徴について理解する。 上顎左側第一大臼歯のワックスアップの方法、注意点について理解し製作する。
7	実技トレーニング⑦ 排列トレーニング③[上下顎前歯部]	実習	上顎前歯部の排列基準、排列方法、注意点について理解し製作する。 下顎前歯部の排列基準、排列方法、注意点について理解し製作する。
8	実技トレーニング⑧ 14 デッサン・彫刻トレーニング①	実習	上顎右側第一小臼歯の特徴について理解する。 上顎右側第一小臼歯のデッサン・彫刻の注意点について理解し製作する。
9	実技トレーニング⑨ 14 デッサン・彫刻トレーニング②	実習	上顎右側第一小臼歯の特徴について理解する。 上顎右側第一小臼歯のデッサン・彫刻の注意点について理解し製作する。
10	実技トレーニング⑩ 26 ワックスアップトレーニング③	実習	上顎左側第一大臼歯の特徴について理解する。 全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解し製作する。
11	14 デッサン(15分間)、彫刻(45分間)	実習	上顎右側第一小臼歯の特徴について理解する。 上顎右側第一小臼歯のデッサン・彫刻の注意点について理解し製作する。
12	11 デッサン(15分間)、彫刻(45分間)	実習	上顎右側中切歯の特徴をについて理解する。 上顎右側中切歯のデッサン・彫刻の注意点について理解し製作する。
13	26 Cr. Wax up(60分間)	実習	上顎左側第一大臼歯の特徴について理解する。 全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解し製作する。
14	FD前歯部排列①(40分間)・振り返り	実習	全部床義歯(下顎法)の前歯部人工歯の排列基準、排列方法、注意点について 理解し製作する。
15	FD前歯部排列②(30分間)・振り返り	実習	全部床義歯(下顎法)の前歯部人工歯の排列基準、排列方法、注意点について 理解し製作する。

科目名 (英)	課題研究実習 I	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	鵜飼 芳行
	Research and Professional Plactice I	授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科 II 部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	前期
		単位	1			曜日・時間	月～金 / 5・6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が多種にわたる技工に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	今までに修得した知識と技術を結集した卒業課題研究作品を製作し歯科技工の技術を総合的に習得する。						
科目概要	卒業後のキャリア形成を踏まえ、既習知識と技術を用いて自ら設定した課題作品を計画的に製作する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら設定した課題に基づいて、歯科技工物を製作することができる。 ・製作計画を立案し、実行できる。 ・作業模型製作、咬合器装着 症例の下準備状況をチェックしながら製作できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	各専門科目の教科書及び実習帳、ほか			事前事後 学習と その内容	事前準備として、実習授業で使用了教科書および実習プリントを課題に合わせて確認、振り返ると良い。		
参考図書	なし						
特記事項	完成した作品のコンテストをI、II部合同で行い、発表する。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	模型製作と咬合器装着	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br模型製作 咬合器装着 ②PD模型製作 咬合器装着 ③FD模型製作 咬合床製作
2			
3	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Brワックスアップ 窓開け ②PD設計 維持装置製作・金属床設計 リリーフ ブロックアウト ③FD咬合床製作 咬合器装着
4			
5	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Brスプルーイング～埋没 ②PD維持装置 連結子製作・金属床 複印象 耐火模型製作 ③FD前歯部排列
6			
7	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Brスプルーイング～埋没 ②PD維持装置 連結子製作・金属床ワックスアップ ③FD臼歯部排列
8	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br掘り出し～メタル調整 ②PD人工歯排列・金属床 スプルーイング 埋没 ③FD臼歯部排列
9	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br掘り出し～メタル調整 ②PD人工歯排列・金属床 掘り出し 形態修正 ③FD歯肉形成
10	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Brメタル調整～研磨 ②PD歯肉形成 金属床 形態修正 ③FD歯肉形成
11	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br歯冠色材料築盛 ②PD歯肉形成 金属床 フレーム研磨 ③FD歯肉形成
12	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br模型製作 咬合器装着 ②PD模型製作 咬合器装着 ③FD模型製作 咬合床製作
13	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Brワックスアップ 窓開け ②PD設計 維持装置製作・金属床設計 リリーフ ブロックアウト ③FD咬合床製作 咬合器装着
14	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Brスプルーイング～埋没 ②PD維持装置 連結子製作・金属床 複印象 耐火模型製作 ③FD前歯部排列
15	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Brスプルーイング～埋没 ②PD維持装置 連結子製作・金属床 複印象 耐火模型製作 ③FD前歯部排列

科目名 (英)	課題研究実習Ⅱ Research and Professional PlacticeⅡ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	鵜飼 芳行
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	月～金 / 5・6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が多種にわたる技工に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	今までに修得した知識と技術を結集した卒業課題研究作品を製作することができる。						
科目概要	卒業後のキャリア形成を踏まえ、既習知識と技術を用いて自ら設定した課題作品を計画的に製作しプレゼンテーションする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら設定した課題に基づいて、計画的に製作を進め、歯科技工物を完成させることができる。 ・作品についてプレゼンテーション資料を作成し、発表することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	各専門科目の教科書及び実習帳、ほか			事前事後 学習と その内容	事前準備として、実習授業で使用した教科書および実習プリントを各自の課題に合わせて確認、振り返ると良い。		
参考図書	特になし						
特記事項	完成した作品のコンテストをⅠ、Ⅱ部合同で行い、発表する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br歯冠色材料築盛 ②PD埋没・金属床 人工歯排列 ③FD埋没
2	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br歯冠色材料築盛 ②PD流ろう・金属床 咬合調整 歯肉形成 ③FD流ろう 填入 重合
3			
4	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br形態修正 ②PD掘り出し 咬合調整・金属床 コア製作 ③FD再装着 削合
5			
6	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br形態修正 ②PD形態修正 ・金属床 レジン流し込み ③FD削合
7			
8	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Brメタル調整～研磨 ②PD荒研磨・金属床 形態修正 ③FD形態修正
9			
10	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Brメタル調整～研磨 ②PD荒研磨・金属床 荒研磨 ③FD中研磨
11			
12	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br追加～形態修正 ②PD研磨・金属床 研磨 ③FD研磨
13			
14	レポート作成	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究作品のレポートをまとめる ・プレゼンテーションの準備をする
15			

科目名 (英)	歯型彫刻総合 Dental Carving	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	後期
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連づけて、歯型彫刻の手技を指導する。						
目的	歯科技工士にとって基礎となる歯の形態的特徴を見ないで彫刻できるようになる。						
科目概要	1、2年次に繰り返し練習できていない歯種について(犬歯、小臼歯)のデッサン、面取り、荒彫りの彫刻手順を反復トレーニングする。						
到達目標	・犬歯、小臼歯の面取り～荒彫りが模型やプリントを見ないで左右とも見ないで彫刻できるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスを確認し、必要な道具、模型を準備して 授業に臨むこと。スマホの動画で動作のイメージをつかむと よい。 事後学習: 30分程度でも毎日、自主的な練習を推奨する。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	国家試験科目(実地試験)						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	13 デッサン、見て面取り～荒彫り	実習	13 の形態的特徴を確認し、外形のデッサンを行う。面取り後、チェックを受け、荒彫りを進める。荒彫りの注意点を理解する。				
2	13 見ないで面取り～荒彫り	実習	13 の面取りを模型やプリントを見ないで実施し、完成後に模型と見比べて確認、修正後、注意点を守って荒彫りを進める。				
3	23 デッサン、見て面取り～荒彫り	実習	23 の形態的特徴を確認し、外形のデッサンを行う。面取り後、チェックを受け、荒彫りを進める。荒彫りの注意点を理解する。				
4	23 見ないで面取り～荒彫り	実習	23 の面取りを模型やプリントを見ないで実施し、完成後に模型と見比べて確認、修正後、注意点を守って荒彫りを進める。				
5	14 見てデッサン、面取り～荒彫り	実習	14 の形態的特徴を確認し、外形のデッサンを行う。面取り後、チェックを受け、荒彫りを進める。逆表徴の表現を理解する。				
6	24 見てデッサン、面取り～荒彫り	実習	24 の形態的特徴を確認し、外形のデッサンを行う。面取り後、チェックを受け、荒彫りを進める。逆表徴の表現を理解する。				
7	24 見ないで面取り～荒彫り	実習	24 の面取りを見ないで行い、に模型と見比べて確認、修正後、注意点を守って荒彫りを進める。				
8	44 見てデッサン、面取り～荒彫り	実習	44 の形態的特徴を確認し、外形のデッサンを行う。ステップチェックを受けながら面取りを完成させ、その後、荒彫りを進める。				
9	44 見ないでデッサン、面取り～荒彫り	実習	44 のデッサンを模型を見ないで行い、完成後、チェック修正する。デッサンで形の特徴を理解し面取り後、チェックを受け荒彫りを進める。				
10	34 見てデッサン、面取り～荒彫り	実習	34 の形態的特徴を確認し、外形のデッサンを行う。ステップチェックを受けながら面取りを完成させ、その後、荒彫りを進める。				
11	34 見ないでデッサン、面取り～荒彫り	実習	34 のデッサンを模型を見ないで行い、完成後、チェック修正する。デッサンで形の特徴を理解し面取り後、チェックを受け荒彫りを進める。				
12	34 見ないでデッサン、面取り～荒彫り	実習	34 のデッサンを模型を見ないで行い、完成後、チェック修正する。デッサンで形の特徴を理解し面取り後、チェックを受け荒彫りを完成する。				
13	35 見てデッサン、面取り～荒彫り	実習	35 の形態的特徴を確認し、外形のデッサンを行う。ステップチェックを受けながら面取りを完成させ、その後、荒彫りを進める。				
14	35 見ないでデッサン、面取り～荒彫り	実習	35 のデッサンを模型を見ないで行い、完成後、チェック修正する。デッサンで形の特徴を理解し面取り後、チェックを受け荒彫りを進める。				
15	35 見ないでデッサン、面取り～荒彫り	実習	35 のデッサンを模型を見ないで行い、完成後、チェック修正する。デッサンで形の特徴を理解し面取り後、チェックを受け荒彫りを完成する。				

科目名 (英)	歯科技工実習総合Ⅱ Training of Dental Technology Ⅱ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15 (コマ数)	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	火～金 / 5・6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連づけて、歯型彫刻の手技を指導する。						
目的	卒業後の歯科技工業務を見据えて専門科目の枠を超え、これまでの学びを総合的に復習する。						
科目概要	全技協実技評価試験ならびに出願判定試験の作品について、フィードバックを受けることにより実力を確認し、今後の課題を理解する。また正しい形態を理解するために見本や評価表を用いてチェックを行う。						
到達目標	・歯のデッサン、歯型彫刻、ワイヤー屈曲について、決められた時間内で合格基準の作品を完成させることができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	配布資料 歯の解剖学 実習プリント(オリジナル) 配布資料 有床義歯技工学 実習プリント(オリジナル) 配布資料 歯冠修復技工学 実習プリント(オリジナル)	事前事後 学習と その内容	事前学習として、歯型彫刻・ワックスアップ・人工歯排列の項目の「実習プリント」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことと良い。				
参考図書	特になし						
特記事項	制限時間内で課題が完成できない場合は、自主的に練習をすること。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	出願判定試験と総評1	実習	課題:2時間30分で総義歯人工歯排列・歯肉形成を行う。 この実習で提出された作品は出願判定試験として成績評価する。 試験後は正しい形態を理解するために、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
2			
3	出願判定試験と総評2	実習	課題:60分で全部金属冠の蝟型採得を行う。 この実習で提出された作品は出願判定試験として成績評価する。 試験後は正しい形態を理解するために、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
4	国試実地トレーニング 歯のデッサン・彫刻試験 ①	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックおよび教員によるチェックを行う。
5	国試実地トレーニング 歯のデッサン・彫刻試験 ②	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックおよび教員によるチェックを行う。
6	国試実地トレーニング 歯のデッサン・彫刻試験 ③	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックおよび教員によるチェックを行う。
7	国試実地トレーニング 歯のデッサン・彫刻試験 ④	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックおよび教員によるチェックを行う。
8	国試実地トレーニング 歯のデッサン・彫刻試験 ⑤	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックおよび教員によるチェックを行う。
9	国試実地トレーニング 歯のデッサン・彫刻試験 ⑥	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックおよび教員によるチェックを行う。
10	国試実地トレーニング 歯のデッサン・彫刻試験 ⑦	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックおよび教員によるチェックを行う。
11	国試実地トレーニング 歯のデッサン・彫刻試験 ⑧	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックおよび教員によるチェックを行う。
12	国試実地トレーニング 歯のデッサン・彫刻試験 ⑨	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックおよび教員によるチェックを行う。
13	国試実地トレーニング 歯のデッサン・彫刻試験 ⑩	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックおよび教員によるチェックを行う。
14	国試実地トレーニング 歯のデッサン・彫刻試験 ⑪	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックおよび教員によるチェックを行う。
15	作品製作と総評 歯のデッサン・彫刻	実習	課題:歯のデッサン(30分間)、歯型彫刻(45分)の製作を行う。 この実習で提出された作品は成績評価する。 試験後は正しい形態を理解するために、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。

科目名 (英)	歯科技工実習総合Ⅲ Training of Dental TechnologyⅢ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	40	授業回数 (コマ数)	20	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	火～金 / 5・6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連づけて、歯型彫刻の手技を指導する。						
目的	卒業後の歯科技工業務を見据えて専門科目の枠を超え、今までの学びを総合的に復習することを目的とする。						
科目概要	全技協実技評価試験ならびに出願判定試験の作品について、フィードバックを受けることにより実力を確認し、今後の課題を理解する。また正しい形態を理解するために見本や評価表を用いてチェックを行う。						
到達目標	・歯のデッサン、歯型彫刻、ワイヤー屈曲について、決められた時間内で合格基準の作品を完成させることができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	配布資料 歯の解剖学 実習プリント(オリジナル) 配布資料 有床義歯技工学 実習プリント(オリジナル)	事前事後 学習と その内容	事前学習として、歯型彫刻・ワイヤー屈曲の項目の「実習プリント」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくこと。				
参考図書	特になし						
特記事項	制限時間内で課題が完成できない場合は、自主的に練習をすること。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ワイヤー屈曲トレーニング①	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックを行い、教員によるチェックを受ける。
2	ワイヤー屈曲トレーニング②	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックを行い、教員によるチェックを受ける。
3	ワイヤー屈曲トレーニング③	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックを行い、教員によるチェックを受ける。
4	国試実地トレーニング 歯型彫刻・歯のデッサン・ワイヤー屈曲①	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックを行い、教員によるチェックを受ける。
5	国試実地トレーニング 歯型彫刻・歯のデッサン・ワイヤー屈曲②	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックを行い、教員によるチェックを受ける。
6	国試実地トレーニング 歯型彫刻・歯のデッサン・ワイヤー屈曲③	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックを行い、教員によるチェックを受ける。
7	国試実地トレーニング 歯型彫刻・歯のデッサン・ワイヤー屈曲④	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックを行い、教員によるチェックを受ける。
8	国試実地トレーニング 歯型彫刻・歯のデッサン・ワイヤー屈曲⑤	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックを行い、教員によるチェックを受ける。
9	国試実地トレーニング 歯型彫刻・歯のデッサン・ワイヤー屈曲⑥	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックを行い、教員によるチェックを受ける。
10	国試実地トレーニング 歯型彫刻・歯のデッサン・ワイヤー屈曲⑦	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックを行い、教員によるチェックを受ける。
11	国試実地トレーニング 歯型彫刻・歯のデッサン・ワイヤー屈曲⑧	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックを行い、教員によるチェックを受ける。
12	国試実地トレーニング 彫刻試験・歯のデッサン・ワイヤー屈曲⑨	実習	「ブレ国家試験」という位置付けで、国家試験実施試験と同じ時間帯で、3課題の試験形式トレーニングを行う。完成作品は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックを行い、教員によるチェックを受ける。
13			
14	国試実地トレーニング 歯型彫刻・歯のデッサン・ワイヤー屈曲⑩	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。完成作品は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックを行い、教員によるチェックを受ける。
15	国試実地トレーニング 歯型彫刻・歯のデッサン・ワイヤー屈曲⑪	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。完成作品は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックを行い、教員によるチェックを受ける。
16	「もう一度国家試験」 歯型彫刻・歯のデッサン・ワイヤー屈曲⑫	実習	前日の国家試験で出題された課題について、同じ時間帯で3課題の試験形式トレーニングを行う。完成作品は正しい形態を理解するために、見本や評価表を用いて自己チェックを行い、教員によるチェックを受ける。
17	卒業前実習 ①	実習	①臨床模型を用いてワックスアップから埋没、鑄造、研磨まで行う。 ②自分の口腔内模型を使用して個歯トレーならびに個人トレーの製作を行う。 ※就職先にあわせて実習内容は変更可能
18	卒業前実習 ②	実習	①臨床模型を用いてワックスアップから埋没、鑄造、研磨まで行う。 ②自分の口腔内模型を使用して個歯トレーならびに個人トレーの製作を行う。 ※就職先にあわせて実習内容は変更可能
19	卒業前実習 ③	実習	①臨床模型を用いてワックスアップから埋没、鑄造、研磨まで行う。 ②自分の口腔内模型を使用して個歯トレーならびに個人トレーの製作を行う。 ※就職先にあわせて実習内容は変更可能
20	卒業前実習 ④	実習	①臨床模型を用いてワックスアップから埋没、鑄造、研磨まで行う。 ②自分の口腔内模型を使用して個歯トレーならびに個人トレーの製作を行う。 ※就職先にあわせて実習内容は変更可能

科目名 (英)	総合歯科技工学Ⅱ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
	Dental TechnologyⅡ	授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2	(コマ数)		曜日/時間	月～金 / 5・6限
講師紹介	歯科技工士として大学付属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし総合的な歯科技工知識について授業を行う。						
目的	卒業後の歯科技工業務を見据えて専門科目の枠を超え、今までの学びを総合的に習得する。						
科目概要	歯科技工士として必要な総合的な基礎力を習得するために、顎口腔機能学、矯正歯科技工学、小児歯科技工学等の模擬試験および解説講義を行い、歯科技工士として必要な知識を総合的に理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目の枠を超え総合的に知識の振り返りをする。 ・問題演習と解説講義を通じて、知識を定着させることができる。 						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点とする。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	新歯科技工士教本(8科目)(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、1年次から使用した教材を読み返し、授業を受けると良い。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授業計画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	模擬試験1(顎口 20問)と解説授業 顎口腔系、下顎位	講義	顎口腔機能学20問の模擬試験を行う。試験後は正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行い、さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
2	模擬試験1(矯正 20問)と解説授業 正常咬合と不正咬合	講義	矯正歯科技工学20問の模擬試験を行う。試験後は正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行い、さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
3	模擬試験1(小児 20問)と解説授業 ヘルマンの歯齢、萌出順序、乳歯の特徴	講義	小児歯科技工学20問の模擬試験を行う。試験後は正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行い、さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
4	模擬試験2(顎口 20問)と解説授業 下顎位、下顎運動	講義	顎口腔機能学20問の模擬試験を行う。試験後は正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行い、さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
5	模擬試験2(矯正 20問)と解説授業 アングルの分類、器材、ワイヤー屈曲、咬着	講義	矯正歯科技工学20問の模擬試験を行う。試験後は正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行い、さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
6	模擬試験2(小児 20問)と解説授業 無歯期～混合歯列期	講義	小児歯科技工学20問の模擬試験を行う。試験後は正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行い、さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
7	模擬試験3(顎口 20問)と解説授業 下顎運動、平面、咬合器	講義	顎口腔機能学20問の模擬試験を行う。試験後は正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行い、さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
8	模擬試験3(矯正 20問)と解説授業 模型、装置の分類	講義	矯正歯科技工学20問の模擬試験を行う。試験後は正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行い、さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
9	模擬試験3(小児 20問)と解説授業 クワウンブ、デイスルシュー	講義	小児歯科技工学20問の模擬試験を行う。試験後は正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行い、さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
10	模擬試験4(顎口 20問)と解説授業 咬合器、咬合	講義	顎口腔機能学20問の模擬試験を行う。試験後は正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行い、さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
11	模擬試験4(矯正 20問)と解説授業 舌側弧線装置、アクチハートル 拳上板、斜面板、拡大装置	講義	矯正歯科技工学20問の模擬試験を行う。試験後は正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行い、さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
12	模擬試験4(小児 20問)と解説授業 保隙、舌側弧線装置、ナンス、床型	講義	小児歯科技工学20問の模擬試験を行う。試験後は正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行い、さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
13	模擬試験5(顎口・矯正・小児 各20問) と解説授業	講義	顎口・矯正・小児 各20問の模擬試験を行う。試験後は正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行い、さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
14	模擬試験B1と解説講義 (理工40、解剖20、小児12、顎口12)	講義	理工・解剖・小児・顎口の4科目について模擬試験を行う。試験後は正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行い、さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
15	模擬試験A1と解説講義 (有床28、修復28、矯正12、法規8)	講義	有床・修復・矯正・法規の4科目について模擬試験を行う。試験後は正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行い、さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。

科目名 (英)	総合歯科技工学Ⅲ Dental TechnologyⅢ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15 (コマ数)	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	2	曜日/時間		月 / 5・6限	
講師紹介	歯科技工士として大学付属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし総合的な歯科技工知識について授業を行う。						
目的	卒業後の歯科技工業務を見据えて専門科目の枠を超え、今までの学びを総合的に復習することを目的とする。						
科目概要	歯科技工士として必要な総合的な基礎力を習得するために専門8科目(有床、修復、矯正、法規、理工、解剖、小児、顎口)の模擬試験および解説講義を行い、歯科技工士国家試験に合格できる力を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目の枠を超え知識の振り返りをする。 ・問題演習と解説講義を通じて、知識を定着させる。 ・模試B4(統一模試②)において、国家試験合格基準である60%以上の正解を得ることができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、筆記試験を100点満点とする。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	新歯科技工士教本(8科目)(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、1年次から使用した教材を読み返し、授業を受けると良い。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	模擬試験の自己採点・復習 (有床28、修復28、矯正12、法規8)	講義	有床・修復・矯正・法規の4科目について模擬試験を行う。 試験後は自己採点を行い、間違えた問題や疑問点を教科書等を用いて調べ復習する。
2	模擬試験解説講義 (有床義歯技工学)	講義	模擬試験の有床義歯技工学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
3	模擬試験解説講義 (矯正歯科技工学・関係法規)	講義	模擬試験の矯正歯科技工学ならびに関係法規について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
4	模擬試験の自己採点・復習 (理工40、解剖20、小児12、顎口12)	講義	理工・解剖・小児・顎口の4科目について模擬試験を行う。 試験後は自己採点を行い、間違えた問題や疑問点を教科書等を用いて調べ復習する。
5	模擬試験解説講義 (歯科理工学)	講義	模擬試験の歯科理工学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
6	模擬試験解説講義 (歯の解剖学)	講義	模擬試験の歯の解剖学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
7	模擬試験解説講義 (小児歯科技工学・顎口腔機能学)	講義	模擬試験の顎口腔機能学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
8	模擬試験の自己採点・復習 (有床28、修復28、矯正12、法規8)	講義	有床・修復・矯正・法規の4科目について模擬試験を行う。 試験後は自己採点を行い、間違えた問題や疑問点を教科書等を用いて調べ復習する。
9	模擬試験解説講義 (有床義歯技工学)	講義	模擬試験の有床義歯技工学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
10	模擬試験解説講義 (矯正歯科技工学・関係法規)	講義	模擬試験の矯正歯科技工学ならびに関係法規について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
11	模擬試験自己採点・復習 (理工40、解剖20、小児12、顎口12)	講義	理工・解剖・小児・顎口の4科目について模擬試験を行う。 試験後は自己採点を行い、間違えた問題や疑問点を教科書等を用いて調べ復習する。
12	模擬試験解説講義 (歯科理工学)	講義	模擬試験の歯科理工学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
13	模擬試験解説講義 (歯の解剖学)	講義	模擬試験の歯の解剖学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
14	模擬試験解説講義 (小児歯科技工学・顎口腔機能学)	講義	模擬試験の顎口腔機能学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
15	模試[統一模試②]の自己採点・復習 (理20、解12、矯10、小10、法6)	講義	全国統一模試②(理工・解剖・矯正・小児・法規)を行う。 試験後は自己採点を行い、間違えた問題や疑問点を教科書等を用いて調べ復習する。

科目名 (英)	総合歯科技工学Ⅳ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
	Dental TechnologyⅣ	授業形態	講義		有	開講区分	
		時間数	30	授業回数 (コマ数)	15		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	2			曜日/時間	後期 月 / 5・6限
講師紹介	歯科技工士として大学付属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし総合的な歯科技工知識について授業を行う。						
目的	卒業後の歯科技工業務を見据えて専門科目の枠を超え、今までの学びを総合的に復習し理解度を深める。						
科目概要	歯科技工士として必要な総合的な基礎力を習得するために専門8科目(有床、修復、矯正、法規、理工、解剖、小児、顎口)の模擬試験および解説講義を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目の枠を超え総合的に知識の振り返りをする。 ・問題演習と解説講義を通じて、知識を定着させることができる。 						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点とする。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	新歯科技工士教本(8科目)(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、1年次から使用した教材を読み返し、授業を受けると良い。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	模擬試験の自己採点・復習 (有床28、修復28、矯正12、法規8)	講義	有床・修復・矯正・法規の4科目について模擬試験を行う。 試験後は自己採点を行い、間違えた問題や疑問点を教科書等を用いて調べ復習する。
2	模擬試験解説講義 (有床義歯技工学)	講義	模擬試験の有床義歯技工学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
3	模擬試験解説講義 (矯正歯科技工学・関係法規)	講義	模擬試験の矯正歯科技工学ならびに関係法規について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
4	模擬試験の自己採点・復習 (理工40、解剖20、小児12、顎口12)	講義	理工・解剖・小児・顎口の4科目について模擬試験を行う。 試験後は自己採点を行い、間違えた問題や疑問点を教科書等を用いて調べ復習する。
5	模擬試験解説講義 (歯科理工学)	講義	模擬試験の歯科理工学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
6	模擬試験解説講義 (歯の解剖学)	講義	模擬試験の歯の解剖学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
7	模擬試験解説講義 (小児歯科技工学・顎口腔機能学)	講義	模擬試験B2の顎口腔機能学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
8	模擬試験の自己採点・復習 (有床28、修復28、矯正12、法規8)	講義	有床・修復・矯正・法規の4科目について模擬試験を行う。 試験後は自己採点を行い、間違えた問題や疑問点を教科書等を用いて調べ復習する。
9	模擬試験解説講義 (有床義歯技工学)	講義	模擬試験の有床義歯技工学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
10	模擬試験解説講義 (矯正歯科技工学・関係法規)	講義	模擬試験の矯正歯科技工学ならびに関係法規について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
11	模擬試験の自己採点・復習 (理工40、解剖20、小児12、顎口12)	講義	理工・解剖・小児・顎口の4科目について模擬試験を行う。 試験後は自己採点を行い、間違えた問題や疑問点を教科書等を用いて調べ復習する。
12	模擬試験解説講義 (歯科理工学)	講義	模擬試験の歯科理工学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
13	模擬試験解説講義 (歯の解剖学)	講義	模擬試験の歯の解剖学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
14	模擬試験解説講義 (小児歯科技工学・顎口腔機能学)	講義	模擬試験の顎口腔機能学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
15	模試〔統一模試②〕の自己採点・復習 (理20、解12、矯10、小10、法6)	講義	全国統一模試②の(理工・解剖・矯正・小児・法規)を行う。 試験後は自己採点を行い、間違えた問題や疑問点を教科書等を用いて調べ復習する。

科目名 (英)	総合歯科技工学V	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
	Dental Technology V	授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	月 / 5・6限
講師紹介	歯科技工士として大学付属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし総合的な歯科技工知識について授業を行う。						
目的	卒業後の歯科技工業務を見据えて専門科目の枠を超え、今までの学びを総合的に復習し理解度を深める。						
科目概要	歯科技工士として必要な総合的な基礎力を習得するために専門8科目(有床、修復、矯正、法規、理工、解剖、小児、顎口)の模擬試験および解説講義を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目の枠を超え総合的に知識の振り返りをする。 ・問題演習と解説講義を通じて、知識を定着させることができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、筆記試験を100点満点とする。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	新歯科技工士教本(8科目)(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、1年次から使用した教材を読み返し、授業を受けると良い。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	模擬試験の自己採点・復習 (有床28、修復28、矯正12、法規8)	講義	有床・修復・矯正・法規の4科目について模擬試験を行う。 試験後は自己採点を行い、間違えた問題や疑問点を教科書等を用いて調べ復習する。
2	模擬試験解説講義 (有床義歯技工学)	講義	模擬試験の有床義歯技工学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
3	模擬試験解説講義 (矯正歯科技工学・関係法規)	講義	模擬試験の矯正歯科技工学ならびに関係法規について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
4	模擬試験の自己採点・復習 (理工40、解剖20、小児12、顎口12)	講義	理工・解剖・小児・顎口の4科目について模擬試験を行う。 試験後は自己採点を行い、間違えた問題や疑問点を教科書等を用いて調べ復習する。
5	模擬試験解説講義 (歯科理工学)	講義	模擬試験の歯科理工学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
6	模擬試験解説講義 (歯の解剖学)	講義	模擬試験の歯の解剖学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
7	模擬試験解説講義 (小児歯科技工学・顎口腔機能学)	講義	模擬試験B2の顎口腔機能学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
8	模擬試験の自己採点・復習 (有床28、修復28、矯正12、法規8)	講義	有床・修復・矯正・法規の4科目について模擬試験を行う。 試験後は自己採点を行い、間違えた問題や疑問点を教科書等を用いて調べ復習する。
9	模擬試験解説講義 (有床義歯技工学)	講義	模擬試験の有床義歯技工学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
10	模擬試験解説講義 (矯正歯科技工学・関係法規)	講義	模擬試験の矯正歯科技工学ならびに関係法規について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
11	模擬試験の自己採点・復習 (理工40、解剖20、小児12、顎口12)	講義	理工・解剖・小児・顎口の4科目について模擬試験を行う。 試験後は自己採点を行い、間違えた問題や疑問点を教科書等を用いて調べ復習する。
12	模擬試験解説講義 (歯科理工学)	講義	模擬試験の歯科理工学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
13	模擬試験解説講義 (歯の解剖学)	講義	模擬試験の歯の解剖学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
14	模擬試験解説講義 (小児歯科技工学・顎口腔機能学)	講義	模擬試験の顎口腔機能学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
15	模試[統一模試②]の自己採点・復習 (理20、解12、矯10、小10、法6)	講義	全国統一模試②の(理工・解剖・矯正・小児・法規)を行う。 試験後は自己採点を行い、間違えた問題や疑問点を教科書等を用いて調べ復習する。

科目名 (英)	総合歯科技工学VI	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
	Dental Technology VI	授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	月 / 5・6限
講師紹介	歯科技工士として大学付属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし総合的な歯科技工知識について授業を行う。						
目的	卒業後の歯科技工業務を見据えて専門科目の枠を超え、今までの学びを総合的に復習し理解度を深める。						
科目概要	歯科技工士として必要な総合的な基礎力を習得するために専門8科目(有床、修復、矯正、法規、理工、解剖、小児、顎口)の模擬試験および解説講義を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目の枠を超え総合的に知識の振り返りをする。 ・問題演習と解説講義を通じて、知識を定着させることができる。 						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点とする。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	新歯科技工士教本(8科目)(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、1年次から使用した教材を読み返し、授業を受けると良い。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	模擬試験の自己採点・復習 (有床28、修復28、矯正12、法規8)	講義	有床・修復・矯正・法規の4科目について模擬試験を行う。 試験後は自己採点を行い、間違えた問題や疑問点を教科書等を用いて調べ復習する。
2	模擬試験解説講義 (有床義歯技工学)	講義	模擬試験の有床義歯技工学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
3	模擬試験解説講義 (矯正歯科技工学・関係法規)	講義	模擬試験の矯正歯科技工学ならびに関係法規について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
4	模擬試験の自己採点・復習 (理工40、解剖20、小児12、顎口12)	講義	理工・解剖・小児・顎口の4科目について模擬試験を行う。 試験後は自己採点を行い、間違えた問題や疑問点を教科書等を用いて調べ復習する。
5	模擬試験解説講義 (歯科理工学)	講義	模擬試験の歯科理工学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
6	模擬試験解説講義 (歯の解剖学)	講義	模擬試験の歯の解剖学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
7	模擬試験解説講義 (小児歯科技工学・顎口腔機能学)	講義	模擬試験B2の顎口腔機能学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
8	模擬試験の自己採点・復習 (有床28、修復28、矯正12、法規8)	講義	有床・修復・矯正・法規の4科目について模擬試験を行う。 試験後は自己採点を行い、間違えた問題や疑問点を教科書等を用いて調べ復習する。
9	模擬試験解説講義 (有床義歯技工学)	講義	模擬試験の有床義歯技工学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
10	模擬試験解説講義 (矯正歯科技工学・関係法規)	講義	模擬試験の矯正歯科技工学ならびに関係法規について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
11	模擬試験の自己採点・復習 (理工40、解剖20、小児12、顎口12)	講義	理工・解剖・小児・顎口の4科目について模擬試験を行う。 試験後は自己採点を行い、間違えた問題や疑問点を教科書等を用いて調べ復習する。
12	模擬試験解説講義 (歯科理工学)	講義	模擬試験の歯科理工学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
13	模擬試験解説講義 (歯の解剖学)	講義	模擬試験の歯の解剖学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
14	模擬試験解説講義 (小児歯科技工学・顎口腔機能学)	講義	模擬試験の顎口腔機能学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
15	模試[統一模試②]の自己採点・復習 (理20、解12、矯10、小10、法6)	講義	全国統一模試②の(理工・解剖・矯正・小児・法規)を行う。 試験後は自己採点を行い、間違えた問題や疑問点を教科書等を用いて調べ復習する。

科目名 (英)	総合歯科技工学Ⅶ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
	Dental TechnologyⅦ	授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	20	授業回数 (コマ数)	10	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	月 / 5・6限
講師紹介	歯科技工士として大学付属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし総合的な歯科技工知識について授業を行う。						
目的	卒業後の歯科技工業務を見据えて専門科目の枠を超え、今までの学びを総合的に復習し理解度を深める。						
科目概要	歯科技工士として必要な総合的な基礎力を習得するために専門8科目(有床、修復、矯正、法規、理工、解剖、小児、顎口)の模擬試験および解説を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目の枠を超え総合的に知識の振り返りをする。 ・問題演習と解説講義を通じて、知識を定着させることができる。 						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点とする。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	新歯科技工士教本(8科目)(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、1年次から使用した教材を読み返し、授業を受けると良い。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	模擬試験の自己採点・復習 (有床28、修復28、矯正12、法規8)	講義	有床・修復・矯正・法規の4科目について模擬試験を行う。 試験後は自己採点を行い、間違えた問題や疑問点を教科書等を用いて調べ復習する。
2	模擬試験解説講義 (有床義歯技工学)	講義	模擬試験の有床義歯技工学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
3	模擬試験解説講義 (矯正歯科技工学・関係法規)	講義	模擬試験の矯正歯科技工学ならびに関係法規について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
4	模擬試験の自己採点・復習 (理工40、解剖20、小児12、顎口12)	講義	理工・解剖・小児・顎口の4科目について模擬試験を行う。 試験後は自己採点を行い、間違えた問題や疑問点を教科書等を用いて調べ復習する。
5	模擬試験解説講義 (歯科理工学)	講義	模擬試験の歯科理工学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
6	模擬試験解説講義 (歯の解剖学)	講義	模擬試験の歯の解剖学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
7	模擬試験解説講義 (小児歯科技工学・顎口腔機能学)	講義	模擬試験B2の顎口腔機能学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
8	模擬試験の自己採点・復習 (有床28、修復28、矯正12、法規8)	講義	有床・修復・矯正・法規の4科目について模擬試験を行う。 試験後は自己採点を行い、間違えた問題や疑問点を教科書等を用いて調べ復習する。
9	模擬試験解説講義 (有床義歯技工学)	講義	模擬試験の有床義歯技工学について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。
10	模擬試験解説講義 (矯正歯科技工学・関係法規)	講義	模擬試験の矯正歯科技工学ならびに関係法規について、正答率の低い問題を中心に図や写真を用いて解説講義を行う。さらに練習問題を用いて理解度の確認をする。